

はくぶつかんネット 第75号

令和5年3月～6月号

発行：宜野湾市立博物館

地域との共同企画展 ぎのわんの“^{あざ}字”展

基地に消えたムラ 安仁屋

当館では 2007 年度から毎年市内の各字と連携して、地域との共同企画展を開催しており、今年度の安仁屋が宜野湾の旧 14 集落としては最後の字になりました。第 15 回目となった今回の“字”展は、「基地に消えたムラ 安仁屋」として、安仁屋郷友会との共催で展示会を開催し、地元の歴史や文化とともに郷友会などの活動などについても紹介をしました。戦後、安仁屋の全域は米軍の土地収収によってキャンプ瑞慶覧の一部となり、1964（昭和 39）年の行政区再編で宜野湾市から安仁屋の名前は消えてしまいましたが、そこにあった歴史や文化、人びとの思いを感じて、安仁屋という地域を記憶に留めていただける展示を目指しました。

昨年に引き続き、コロナ禍の開催ではありませんでしたが、2月1日から3月19日までの期間中に、1,089 名の方にご観覧いただきまして、誠にありがとうございました。



開催期間：2022（令和5）年2月1日（水）～3月19日（日）

共催：安仁屋郷友会

無事終了
しました！

見学の様子



ご来館いただいた皆さまからは、「消えたムラがあるとは知らなかった。ムラの繋がりを今も守り続けているのはすてきで、知れて良かった。」「生まれた時からこの場所は基地になっていましたが、その前に生活していた方々の事が知れて良かったです。」「レジャーに来るだけの場所ではないコトを、改めて考えさせられました。」「現在残っている史跡や拝みの様子もあって良かった。」「戦争の影響が現在まで残されている現状を知れた。」など多くの感想をいただきました。このように、現在は基地となってしまった安仁屋ですが、戦前の営みと戦後の土地収収があったことを知り、安仁屋への関心と理解を深めていただけたことを嬉しく思います。



◆ 安仁屋の位置 ◆

安仁屋は宜野湾の最北端に位置し、南は喜友名・新城、東は普天間に接していて、最も規模の小さい字（あざ）だったんじゃよ。

安仁屋は1671年に宜野湾間切が創設された際、北谷間切から宜野湾間切に編入された集落なんじゃよ。



◆ 安仁屋トゥンヤマ遺跡 ◆

現在のキャンプ瑞慶覧内で、安仁屋集落の南東に位置する「安仁屋トゥンヤマ遺跡」からは、土器や中国製の陶磁器、建物跡が発見されたことで、この遺跡がトゥンヤマを中心に形成された、グスク時代以降（約600～700年前）の集落跡であることが分かりました。



出土した青磁碗（せいじわん）



発掘作業の様子

◆ 安仁屋郷友会（きょうゆうかい） ◆

安仁屋では、1964（昭和39）年の行政区再編で、行政区から安仁屋の名前が無くなる前年の1963（昭和38）年1月に「安仁屋郷友会」を結成しました。

現在も安仁屋の祈願行事の継承や共有財産の管理運営、出身者の親睦を深める活動を続けています。



初御願行事（基地内拝所）



1958（昭和33）年8月 安仁屋青年会エイサー記念写真



安仁屋青年会旗



今回の企画展では、安仁屋郷友会並びに、沖縄県立埋蔵文化財センターなどをはじめとする各機関から貴重な資料をご提供いただいたことで、展示内容を充実させることができました。ご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。



報告

企画展

歴史公文書展

～歴史公文書に見る戦後初期のぎのわん～



2023年1月7日（土）～1月22日（日）まで、企画展「歴史公文書展～歴史公文書に見る戦後初期のぎのわん～」を開催しました。歴史公文書とは、役目を終えた公文書の中でも歴史を知る上で重要だと判断され、継続して保管された文書です。企画展では、1950年代までの宜野湾の戦後史に関連する歴史公文書など約88点を展示し、資料から読み取れる市民生活の状況などについて紹介しました。また、期間中は142名の方が見学されました。

皆様からは、「公文書から当時の行政の態度や時代背景がなんとなく想像できた」という声や「堅苦しいイメージが強かったが面白い内容のモノもあって意外だった」など、普段馴染みのない公文書から当時の宜野湾の状況や人々の暮らしがわかったというようなお声をいただきました。ご観覧いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



展示の他に関連事業として、1月15日（日）に市民講座を開催しました♪

「歴史公文書について」 講師：藤波 潔（沖縄国際大学 教授）

役所から出される公文書を通して見える、果たす役割や読み解く歴史について解説していただきました。



宜野湾市制施行60周年・本土復帰50周年記念企画展Ⅱ

めでたい！ 宜野湾60さい！！ ～あれこれあつ展～



昨年は、本土復帰50周年という節目の年に加え、実は、宜野湾市にとっても記念となる年でしたが、みなさん、ご存知でしたでしょうか？「…分からない」という声が聞こえてきそうですが、昨年は「宜野湾」が「村」から「市」へ昇格して、60年という記念の年だったのです！そこで、両方を記念した企画展の第2弾として、昨年の10月26日（水）から12月18日（日）まで、企画展を行いました。

今回の企画展では、1960～80年代の「宜野湾」を取り上げ、その間に起こった主な出来事や、街並みの移り変わりを紹介しました。中でも、昔懐かしい「一銭まちや〜」や「Aサインバー」の再現や、市昇格・本土復帰・730・若夏国体・海洋博に関連する資料を紹介したり、当時の街並みと現在を写真で見比べたりと、様々な角度から宜野湾市の60年を振り返りました。

期間中、1,713名の観覧者が訪れ、「写真、モノ資料をもとに、なつかしく、色々思い出しながら観覧しました。」「お店がかわいかった。次は、おじいちゃんをつれてこようと思う。」「宜野湾市のことをいろんな側面から知ることができてよかったです。」といった嬉しい声を聴くことができました。コロナ禍の中、感染対策に協力していただきながらご観覧くださった皆さん、ありがとうございました。



第23期 わらば～体験じゅく

昨年の6月から始まり、今年の2月に終了した「わらば～体験じゅく」の活動を振り返ります。
市内の小学5・6年生を対象に抽選で選ばれた30人の児童が、主に宜野湾市の歴史や文化について、様々な体験をとおして学びました。

第1回
6/18

開校式／博物館見学と
学芸員体験・昔の道具体験
講師：博物館職員



これから約1年間、一緒に体験する仲間たちとの初顔合わせ☆どんな事が起こるのか、楽しみです♪

第2回
7/16

喜友名のシーサーめぐり
講師：博物館職員



シーサーは屋根や門の上にいる他に、集落を守るシーサーもいる事が分かりました☆

第3回
8/13

漆喰シーサーをつくろう！
講師：比嘉 和行さん
（わにや耕房代表）



瓦の組み合わせによって様々な表情が出るので、みんなのオリジナルシーサーは、個性いっぱいでした♪

第4回
9/24

ウシのお世話を
してみよう！
講師：宮城 邦治さん



その昔、宜野湾市でも行われていた「闘牛」。そのウシ達と、牛舎の掃除や散歩・水浴び等でふれ合いました★

第5回
10/15

田イモの植付けに挑戦！
講師：宮城 徳彦さん
（大山 田イモ農家）



宜野湾市の特産品である「大山のタイモ」の植付けを体験！作物を育てる事の大変さや、大自然に触れました♪

第6回
11/19

沖縄の石と化石の
不思議に迫ろう！
講師：宇佐美 賢さん
（沖縄県立博物館・美術館）



琉球石灰岩を観察して、紙ヤスリで0.03mmまで削り、石の中にある化石を観察しました☆

第7回
12/17

木の実を使って
笛をつくろう！
講師：博物館職員



自然にある木の実を使い、笛を作って吹いてみたり、指人形にしたりして楽しみました！

第8回
1/21

田イモの収穫に挑戦！
講師：石川 達義さん
（大山 田イモ農家）



田イモの「植付け」の次は「収穫」を体験！農家の方が大事に育てた田イモを、丁寧に収穫しました☆

第9回
2/18

漆の技法体験／閉校式
講師：漆実験工房のみなさん
／博物館職員



琉球漆器の技法の一つ「沈金」を体験した後、閉校式を行いました★みんな「じの～ん通」になれたかな？

4月に市内在住の5・6年生になる皆さんの中で、興味のある方は、博物館から配布される申込用紙をぜひ持って来てね♪一緒に宜野湾市の歴史や文化について、楽しく学ぼう！



博物館市民講座を振り返って

令和4年度の市民講座は、引き続き新型コロナの影響もあり、昨年同様に少人数制で開催しました。室内講座7回、野外講座6回の合計13回の講座を無事終了し、累計で241名もの方々にご参加いただきました！2022年は宜野湾市制60th、本土復帰50thの節目の年であり、記念事業としての関連講座（★印の第1・4・5・7回）も開催しました。

★第1回 6/26「普天間の街・コザの街」
平敷 兼哉（市立博物館 館長）他
1960～70年代の雰囲気が残る街、普天



間とコザをバスと徒歩でめぐりながら、基地周辺地域の戦後と街の変化を学びました。

◆第2回 7/3「森川公園の生き物観察」
千木良 芳範（元市立博物館 館長）
森川公園に生息する動植物を観察しながら、公園内の自然環境の特徴や動植物の生態について解説を受けました。



ら、公園内の自然環境の特徴や動植物の生態について解説を受けました。

◆第3回 7/10「ぶらっと、博物館めぐり」
南風原文化センター（南風原文化センター職員他）
南風原文化センターと「沖縄陸軍病院南



風原壕群20号」を見学しながら、南風原周辺や南部の戦闘について学びました。

★第4回 7/31「山田真山 —その人物と作品—」
小林 純子（沖縄県立芸術大学 教授）



スライドで作品を紹介しながら、山田真山の人物像や絵画彫刻の特徴と沖縄近代美術史における功績、平和祈念像に込めた平和への願いについて解説を受けました。

★第5回 8/14「山田真山との思い出」
糸数 政次（浦添市美術館 館長）



山田真山と共に平和祈念像原型を制作した日々を振り返り、山田真山の生涯や平和祈念像の制作方法、立体堆錦の技術継承について解説を受けました。

◆第6回 10/9「沖縄の植物と人の暮らし」
佐々木 健志（琉球大学博物館（風樹館）助教）

沖縄で生活道具の一部として使われてい



た身近な植物利用の文化について、実際の植物を見ながら解説を受けました。

★第7回 10/30「村から市へ 60～70年代の宜野湾」
新垣 義夫（普天満宮 宮司）

宜野湾の市昇格や沖縄本土復帰の頃の



1960～70年代の宜野湾市の街の様子や暮らしの変化についてお話を聞きました。

◆第8回 11/13「『錫』で豆皿づくり」
上原 俊展（金細工まつ）

琉球王国時代から続く「錫（すず）」の伝統



を学び、実際に指導を受けながら豆皿づくりを体験しました。

◆第9回 12/11「近世琉球の〈読み書き〉と宜野湾を考える」
輝 広志（沖縄美ら島財団）



琉球王国時代の教育環境や学校、「科（こう）」の仕組みなどをもとに、士族層や地方役人たちがどのようにして読み書きを学んでいたのかを学びました。

◆第10回 12/25「軽便鉄道の旅 嘉手納線」
波平 エリ子（沖縄女子短期大学 准教授）



戦前にあった沖縄県営軽便鉄道嘉手納線跡を、那覇駅跡から嘉手納駅跡までバスで辿りながら、その歴史と人びとの暮らしの様子を学びました。

◆第11回 1/15「歴史公文書について」
藤波 潔（沖縄国際大学 教授）

公文書とはどのようなものか。実際の公文



書をスライドで見ながら、その特徴や重要性、公文書の今後の可能性について学びました。

◆第12回 1/29「市道宜野湾11号周辺の文化財めぐり」
長濱 健起（市立博物館 係長）

市道宜野湾11号線周辺に所在していた



文化財を徒歩でめぐり、かつてそこにあった人々の生活や文化について学びました。

◆第13回 2/26「ちょっと行きにくいところにある！ ぎのわんの文化財めぐり」
平敷 兼哉（市立博物館 館長）

宜野湾市内の行きにくい場所に所在する



文化財をバスと徒歩でめぐり、地域の文化や祭祀等について学びました。



社会科見学・出前講座の様子



社会科見学

今年度は、新型コロナウイルスが少しずつ落ち着き、市内外の小中学校などから社会科見学にお越しいただきました。今年度は21校（2,191名）の児童・生徒たちが訪れ、昔のくらしや沖縄戦の様子などを、博物館職員の解説や昔の道具を使用した体験から学びました。



出前講座

宜野湾市内の学校を対象に博物館職員が学校へ出向いて行う出前講座は、9校（1,764名）に行いました。今年度は先生の要望に合わせて、「昔の道具とくらし」「宜野湾市のうつりかわり」をはじめ、「学校周辺に残る文化財」「もの（タイム）を作る道具」などの内容を行いました。



今年度はなんと、市内すべての小学校に博物館を利用いただきました！！
今年度も社会科見学や出前講座をご利用いただきまして、ありがとうございました！！



※社会科見学や出前講座は、事前の打ち合わせが必要となりますので、約1ヶ月前までに博物館へお問い合わせくださいますよう、よろしくお願いします。





～今、昔ファッション観察～

戦後間もない頃、ほとんどの住民は老若男女を問わずアメリカ兵のカップパーを着ていました。しかし、終戦して生活が落ち着いてくると、ハウスメイドとして基地内で雇用された女性たちはアメリカ婦人と親しくなり、衣服や下着類、化粧品などが手に入りやすくなりました。そのため、若い女性を中心に徐々に服装が変化していきました。

〈パーマ・おさげ〉

戦前・战中、沖縄県を含む全国では「贅沢は敵」とされていました。そのため、パーマもあててことはもちろん、オシャレもろくにできませんでした。

おさげは戦前からの名残と思われるが、そこにリボンをつけたりしていました。

〈ジャケット〉

昭和25年頃から、古着の洋服が出回るようになったことで、作業服やカップパー服も少なくなっていました。しかし、古着のためピッタリのサイズがなく袖や背広のすそを切ったりしていたそうです。

〈三線〉

現在には到着までの間、車でテレビを見たり、携帯を使ったりしますが、当時はそのような物はなかったので、三線などを使って移動時間を楽しんでいたのではないのでしょうか。

〈サングラス・スカーフ〉

現在は当たり前にあるサングラスは戦後、米軍関係者から貰い、そこから出回り始めたと考えられます。

スカーフは、ハウスメイドとして働いていた女性たちがアメリカ婦人のファッションを見て真似をしていたのではないのでしょうか。

〈カップパー・シャツ〉

戦後、米兵から貰ったり、米軍の物資の横流しなどで沖縄の人々の間でカップパー（米軍の軍服）が行き渡っていました。女性は、カップパーを余すことなくセーラー服や子ども服などに仕立て、男性はぶかぶかのまま着ていたそうです。

こちらの男性もそのうちのひとりなのかもしれません。他にも、同じ柄のシャツを着ている人が見られます。複数人で大きな布を購入して仕立てて着ていたことが考えられます。

資料・情報提供のお願い！

戦後初期の服装が分かる写真や、当時流行ったものの情報の提供をお願いします。

連絡先：市立博物館 / 098-870-9317

我如古青年会のピクニック 1949（昭和24）年
『写真集ぎのわん』（1991）より



令和4年度の博物館活動を振り返って

宜野湾市立博物館、ご利用の皆さま、お世話になっております。日頃から当館をご利用いただき、誠にありがとうございます。

さて、令和4年度の市立博物館は、昨年度に続き、コロナに注意しながら館事業に取り組んできました。令和4年度の活動を振り返りますと、昨年、2022年は宜野湾市制施行60周年と沖縄本土復帰50周年の年であり、当館も冠事業として夏と秋の2回に亘る企画展と、4回の市民講座を開催しました。

わらば～体験じゅくにつきましては、当初、コロナ感染拡大防止から通常30名のじゅく生を25名に減らして募集しましたが、応募者が予想を超えて60名余の応募があり、結局、募集数を25名から30名に戻して、抽選で決めさせていただきました。2倍の応募者数には驚きました。

小学校の社会科見学や出前講座は、市内の公立、私立の小学校、全学校と琉大附属小の3年生の児童が当館職員の授業を受けました。中には社会科見学と出前講座、両方を依頼する学校もございました。

博物館では、昨年5月から研究室の貸室を始めました。現在、サークル活動や会議室の場として、ご利用いただいております。もし、活動を計画中の方がいらっしゃいましたら、一度、施設見学をされてはいかがでしょうか。

このような博物館事業を通して利用者は、昨年度より増えてきました。まだまだコロナには注意が必要ですが、お互いに十分、気をつけながら運営と見学ができればと思います。

結びに令和5年度の博物館活動は、これまで通り企画展や市民講座、わらば～体験じゅくなどを計画しております。もちろん、団体見学もOKです。コロナの状況にもよりますが、できるだけコロナ前の取り組みに戻していきたいと思います。これからも本市の歴史・文化を楽しみながら学べる宜野湾市立博物館をご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。皆さまのご来館をお待ちしております。

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

予告!

比嘉美津子 絵画展 ～羽衣に誘われて（2）～

県内外で活躍する比嘉美津子氏の絵画展で、2000（平成12）年以来、2回目の開催です。羽衣伝説の天女など、ぎのわんと関わりの深い作品を展示します！そして、会期中の4月2日（日）には比嘉氏ご自身によるギャラリートークもありますので、この機会に比嘉美津子氏の世界へと誘われてみませんか♪

◆開催期間：2023（令和5）年3月25日（土）～4月9日（日）

◆会場：宜野湾市立博物館 企画展示室 ◆入場料：無料

ギャラリートーク

2023（令和5）年4月2日（日）

14：00～16：00 場所 企画展示室

※ギャラリートークへの参加は事前の予約制です☆



『琉球の羽衣の伝説』

比嘉美津子 作

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：870-9317 FAX：870-9316

■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（慰霊の日、文化の日は開館）

